

## 本堂葬儀の意義と注意事項

- 一、 導師を中心とした儀式であること。
- 一、 マイクの音量は導師に最適のものにして触らないこと。
- 一、 高齢者の参列が多いためできるだけマイクの利用をし音量に気をつけること よく聞こえないことがあるため
- 一、 洒水(しゃすい) 洒水枝(しゃすいし) 戒尺(かいしゃく) 松明(たいまつ) 経典の用意 洒水の水量は半分以上はあること
- 一、 磬子 木魚の位置確認と滑り止めの設置を忘れないこと
- 一、 殿鐘は導師の進退に合わせて心地よい響きと滑らかなテンポに配慮をすること
- 一、 焼香はスムーズな流れをつくりあまり時間をかけないように終わらせること
- 一、 導師は儀式に臨むにあたり最高潮の状態に持っていくためスタッフはあくまでも黒子に徹してそのお手伝いをすること。その時の精神状態でよし悪しも決まるため
- 一、 出棺は手際よく階段に気をつけること。
- 一、 火葬場への持ち物を忘れないこと

これから当院本堂は改修後はさらなる厳かな儀礼のできる新道場として生まれ変わります。ステンドグラスにデザインされたものは蓮池から飛び立つ鳳凰であります。鳳凰はその後 極楽浄土へと向かいます。当院本堂は東向きであり朝日が差し込みステンドグラスの鳳凰が浮かび上がって見えます。最高の儀礼道場として世に誇るものにするためにもスタッフの活躍と配慮は欠かせません。また導師が最高のパフォーマンスを見せるためにはそれなりの舞台は絶対に必要です。葬儀の良し悪しの 99 パーセントは導師の良し悪しで決まると言っても私はよいと思っています。最後にどんな僧侶の法話とお経を聞いたかそれこそがすべてです。そうでなければ葬儀をする必要などなくただの火葬式でよいと思います。尊敬できる僧侶がいればそういう人だけがすればよいのです。あとは無宗教葬も選択肢かと。そしてこれはスタッフの器量にもかかってきます。主役と脇役と裏方の総合力で決まります。各々が常に自己研鑽をして相乗効果でもって最善のおもてなしを提供してまいりたいと思います。

本堂葬儀では葬儀社的な感覚を持ち込むことなくぬくもりと温かみのある創作葬儀を心がけていきます。決してやっつけ仕事になることなくひとつひとつを丁寧に心を込めて行いたいと思います。宗教儀礼は宗教者と寺務職員で行うことが理想的です。それも宗教施設にて。コロナ禍で葬儀離れが加速しております。供養産業界への世の中の不信感は募るばかりです。これぞ ザ 葬儀を見てもらいたいと思います。心の葬儀が見性院の葬儀です。

合掌

令和5年1月23日

見性院住職